

片平まつり2017を開催しました (2017/10/7-8)

テーマ：東北大学附置研究所等一般公開（片平まつり 2017）

URL：<http://www.katahira-f.tohoku.ac.jp/>

場所：災害科学国際研究所（東北大学青葉山新キャンパス）

2017年10月7(土)～8日(日)に、東北大学片平キャンパス、星陵キャンパス、青葉山新キャンパスにおいて附置研究所等一般公開（片平まつり2017）が実施されました。片平まつりは隔年で開催されており、災害科学国際研究所は、前々回の2013年からの参加で、今回が3回目となります。前回に引き続き、当研究所は青葉山新キャンパスで展示を行いました。

各部門より以下の9つの展示がなされ、当研究所の研究者らの研究・活動内容を、小学生を含む一般来場者に広くまた分かり易く広報する良い機会となりました。

- ① 地震（じしん）を体験（たいけん）！地震もなればこわくない？
- ② 地震をすらりとかわす免震構造（めんしんこうぞう）！免震ってなに？
- ③ みて、さわって、かんがえてみよう！断層（だんそう）ってなに？
- ④ 地球（ちきゅう）の中をのぞいてみよう！
- ⑤ 多次元可視化（たじげんかし）システムを体験しよう！IMIDeSで何が見える化（か）な？
- ⑥ 自力（じりき）で走（はし）らせろ！トイトレイン
- ⑦ みちのく震録伝（しんろくでん）
- ⑧ 感染症（かんせんしょう）を防（ふせ）ごう！手をきれいに洗える？／放射線（ほうしゃせん）を知（し）る！診（み）る！
- ⑨ 世界津波（せかいつなみ）の日ーもっと津波のことを知ろう！

また特別企画として、2日目の午後には保田真理 プロジェクト講師による

- ⑩『めざそう減災マスター』災害がおきたら…どうなる？どうする？

が開催され、多くの親子連れに災害時の適切な行動について楽しみながら学んでもらいました。各展示・特別企画をスタンプラリーでまわってもらい、最後に景品として、減災マスター認定証、メモ帳、ボールペン、缶バッジ等を進呈しました。

一方、片平キャンパスのさくらホールでは、当研究所がホスト役である国立大学附置研究所・センター長会議に合わせて、

- 公開シンポジウム「災害科学とメディア -大災害時代を生き抜くために-」

が1日目の午前に開催された他、それに引き続き片平まつり企画として、「30分でわかる科学の不思議シリーズ」が開講され、2日間で14名の講師を迎えて、わかり易く各研究の最先端について講演いただきました。そのうち当研究所からは、

- (A)「災害医療のヒミツ～緊急時の医療が大進化！」佐々木宏之助教（災害医学研究部門）

- (B)「地震と断層の不思議～予知は可能か？」遠田晋次教授（災害理学研究部門）

の2講演を担当し、それぞれ実際の活動着を着用したり、模型を用いた話で好評を博しました。また、講演後も会場の外に設けた質問スペースで、熱心な来場者からの質問などに対応しました。当研究所への来場者数は、雨模様であった1日目が227名、晴天であった2日目が540名、合計767名と、前回の2倍を大きく上回りました。また交通手段として前回と同様に片平キャンパスとの間を約30分間隔のシャトルバスで結んだ他、今回は昨年開通した市営地下鉄東西線もあり、来場者の倍増にもかかわらず混乱なく移動いただけました。さらに昼の時間帯には、当研究所の向かいにある「みどりショップ」で弁当が販売されるなど、来場者の増加に合わせて年々サービスも充実してきています。

文責：木戸元之（災害理学研究部門・片平まつり委員長）

（次頁へつづく）

全学キャッチフレーズ



災害研キャッチフレーズ



メイン会場の多目的ホール



各展示・特別企画・講演の様子



① グラングラン



② 免震構造



③ 断層



④ 地球の中



⑤ IMIDeS



⑥ トイトレイン



⑦ みちのく震録伝



⑧ 感染症・放射線



⑨ 津波



⑩ 特別企画



㉑ 災害医療



㉒ 地震と断層